

人口減少時代における釧路市の将来展望 — 経済・財政から考える —

釧路公立大学 准教授

下山 朗

本日の流れ

- 報告の概要と問題意識
- 釧路市(および釧根地域)の人口は北海道内で比較するとどうなるか？
- 釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？
- 釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？
- 人口減少時代を生き残るために、何をすればよいのか？(まとめ)

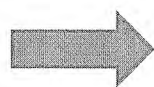
報告の概要と問題意識

釧路地域を巡るポジティブなニュース

- ・釧路空港における台湾定期便就航
- ・バルク港湾の進展 etc

ネガティブなニュース

- ・TPPの参加交渉
- ・人口減少
- ・地域経済の衰退(中心市街地含む) etc



私たちは、「地域経済・社会の現状」と「全国・国際的な動き」の双方をしっかりと認識する必要がある

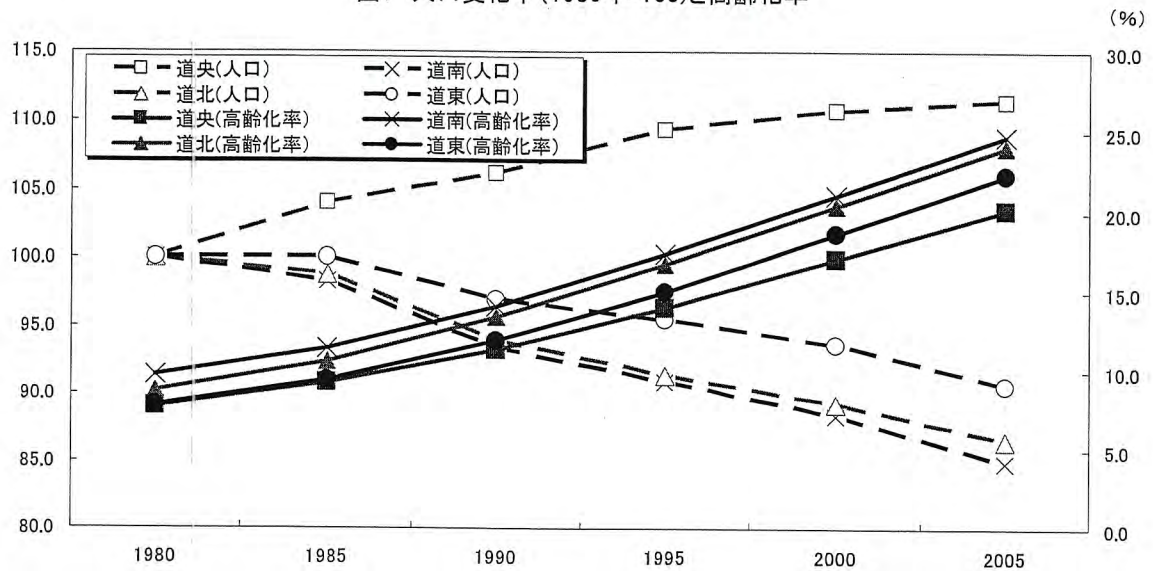
報告の概要と問題意識

今回見ていく釧路地域の現状と課題(対象)

- (1)人口動向・・・地域経済の現状、あるいは今後の地域経済を検討する上での基本的な指標になりうる
- (2)企業経営環境・・・北海道は、一般的に強い一次産品、観光業があるといわれているが、北海道全体が同様にあるわけではないため、釧路地域の企業経営環境について改めて確認する。
- (3)財政状況・・・公共事業の縮小により、都道府県および市町村の役割は必ずしも大きいわけではないが、地域の政策の方向性を検討するためには、自治体財政の影響を強く受けることも考えられる。また、地域経済の疲弊そのものが自治体財政の数値に表れていることも考えられる。

釧路市(および釧根地域)の人口は北海道内で比較するとどうなるか？

図1 人口変化率(1980年=100)と高齢化率



道央部を除き、人口減少傾向。
道東はまだ緩やか。

出所:『国勢調査』各年版より作成。

釧路市(および釧根地域)の人口は北海道内で比較するとどうなるか？

□ 4ブロックに分けた人口変動の推移からわかる課題は？

- ① 高齢化率は一様に右肩上がりであり、それらの対策は全道的に同様に必要である
- ② 人口は、道央一極集中であり、それらに対する課題を正確に認識する必要がある
 - 一極集中の弊害と課題をこれ以外の方法で検討する必要性
- ③ 道東地域は意外にも道北、道南とくらべて人口減少幅が小さいが、本当か？

釧路市(および釧路地域)の人口は北海道内で比較するとどうなるか？

□ 支庁別人口の推移(表1)

年代	石狩計	上川計	渡島計	十勝計	釧路計	根室計	全道
1980	1,640,698	582,106	512,509	355,470	307,408	98,917	5,556,960
1985	1,820,670 (111.0)	582,516 (100.1)	508,920 (99.3)	361,930 (101.8)	308,421 (100.3)	96,554 (97.6)	5,663,213 (101.9)
1990	1,983,063 (120.9)	565,356 (97.1)	489,612 (95.5)	358,939 (101.0)	297,176 (96.7)	92,939 (94.0)	5,642,571 (101.5)
1995	2,124,978 (129.5)	554,669 (95.3)	477,892 (93.2)	359,084 (101.0)	287,724 (93.6)	89,781 (90.8)	5,675,063 (102.1)
2000	2,217,733 (135.2)	550,918 (94.6)	465,704 (90.9)	361,943 (101.8)	278,146 (90.5)	87,280 (88.2)	5,682,827 (102.3)
2005	2,282,600 (139.1)	540,659 (92.9)	451,509 (88.1)	358,201 (100.8)	267,339 (87.0)	85,150 (86.1)	5,632,133 (101.4)
2010	2,319,411 (141.4)	528,167 (90.7)	433,934 (84.7)	352,164 (99.1)	253,126 (82.3)	81,952 (82.8)	5,520,894 (99.4)
2011	2,324,736 (141.7)	524,884 (90.2)	429,967 (83.9)	352,353 (99.1)	250,973 (81.6)	81,231 (82.1)	5,498,916 (99.0)

出所:「住民基本台帳人口」より作成

- ・全道平均は1980年比で、2011年現在でほぼ横ばい
- ・唯一プラスなのは石狩支庁、4割も伸びている(人口ベースで右肩上がり)
- ・上川、渡島、釧路という北海道の4大都市地域もほぼ2割減(上川のみ1割減)
- ・逆に、十勝は全道平均を上回っている状態

表1から分かること

□ 支庁別人口の推移からわかる課題は？

- ① 比較的大きな都市が所在する支庁においても人口減少傾向にあり、釧路市の課題は、旭川、函館も共有している可能性
- ② ただし、十勝地方は一定の人口規模を維持しており、地域の課題は大きく異なる(その理由については、詳細に見る必要がある)
- ③ 図1で、道東の減少幅が小さかったのは、十勝地方のおかげであり、釧路・根室は共通した人口減少の課題がある

人口動態(誰が出ているのか?)

表2

人口移動

	転出計	札幌市へ	当該支庁へ	その他北海道へ	道外へ
札幌市 1,913,545人	112,068	57,350 (51.2%)	5,840 (5.2%)	22,287 (19.9%)	26,591 (23.7%)
小樽市 131,928人	4,253	2,036 (47.9%)	197 (4.6%)	1,034 (24.3%)	986 (23.2%)
苫小牧市 173,320人	6,058	1,921 (31.7%)	700 (11.6%)	1,944 (32.1%)	1,493 (24.6%)
函館市 279,127人	10,173	2,870 (28.2%)	1,580 (15.5%)	2,149 (21.1%)	3,574 (35.1%)

	転出計	札幌市へ	当該支庁へ	その他北海道へ	道外へ
旭川市 347,095人	11,365	3,409 (30.0%)	1,655 (14.6%)	3,353 (29.5%)	2,948 (25.9%)
北見市 125,689人	4,532	1,275 (28.1%)	870 (19.2%)	1,446 (31.9%)	941 (20.8%)
帯広市 168,057人	7,572	1,957 (25.8%)	1,823 (24.1%)	2,159 (28.5%)	1,633 (21.6%)
釧路市 181,169人	7,364	2,042 (27.7%)	911 (12.4%)	2,586 (35.1%)	1,825 (24.8%)

出所:北海道総合政策部地域行政局統計課「北海道住民基本台帳人口移動報告」

人口動態(誰が出ているのか?)

表3

生まれ世代別 人口変動

市町村名 (2010年年齢)	総人口の変動	2000~04生 世代 5~9	1995~99生 世代 10~14	1990~94生 世代 15~19	1985~89生 世代 20~24	1980~84生 世代 25~29	1975~79生 世代 30~34
札幌市	32,682	674	2,236	9,237	8,525	-9,229	-1,993
函館市	-15,137	-152	-121	77	-3,310	-1,733	-916
小樽市	-10,233	-88	-47	187	-1,131	-2,057	-754
旭川市	-7,909	-117	-234	-897	-3,331	-428	-122
釧路市	-8,238	-263	-404	-72	-2,046	-961	-289
帯広市	-2,523	-317	-358	-206	-824	332	-359
苫小牧市	562	-5	-165	-201	-1,163	712	417

市町村名 (2010年年齢)	1970~74生 世代 35~39	1965~69生 世代 40~44	1960~64生 世代 45~49	1955~59生 世代 50~54	1950~54生 世代 55~59	1945~49生 世代 60~64	1945~49生 世代 65~69	~1940生世 代・その他 70~
札幌市	-238	787	631	-734	-886	221	-2,743	-44,682
函館市	-576	-481	-538	-337	-570	-865	-1,092	-13,571
小樽市	-389	-187	-164	-121	-251	-366	-565	-8,077
旭川市	-141	-114	-361	-253	-128	68	-402	-13,814
釧路市	-585	-487	-386	-374	-594	-706	-744	-6,844
帯広市	-367	-380	-165	-191	-427	-332	-472	-5,229
苫小牧市	124	162	-228	-158	-331	-373	-528	-5,298

表2～3から分かること

人口動態から分かる課題とは？

- ① どこに移動しているかという観点からみると
釧路は札幌、本州が中心。支庁内に留まらない
帯広は、支庁内に留まっている＝人口が留まるということとは？
- ② 札幌市も多くは道外へ移動しており、課題がないわけではない。函館は、現状でも道外比率が高まっている。
→ 新幹線はプラスにきくか？ マイナスにきくか？
- ③ 高校進学、大学進学の段階で人口は流出している
- ④ 一方、働き口があれば、20歳代～40歳代の間での流入もあるが…

釧路市の人口移動を詳細に見ると？

表4

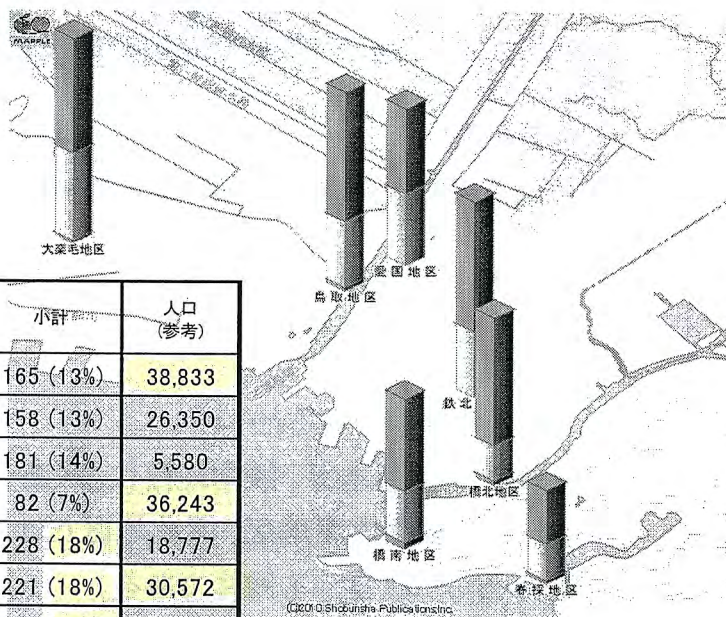
	転出	転入	転入－転出
合計	5,539	4,889	-650
札幌市	2,042	1,363	-679
小樽市	71	56	-15
苫小牧市	156	113	-43
函館市	129	115	-14
旭川市	240	180	-60
北見市	187	183	-4
帯広市	376	287	-89

	転出	転入	転出－転入
参考(道外)	1,825	1,430	-395

	転出	転入	転入－転出
空知計	131	114	-17
石狩計	2,267	1,537	-730
後志計	97	83	-14
胆振計	261	188	-73
日高計	47	41	-6
渡島計	146	145	-1
檜山計	10	23	13
上川計	319	241	-78
留萌計	31	33	2
宗谷計	44	50	6
オホーツク計	358	392	34
十勝計	586	473	-113
釧路計	911	1,215	304
根室計	331	354	23

釧路市内の人口および企業はどうか？

□ 地区別人口および産業分類別企業数



地区	一次産業	二次産業	三次産業	小計	人口 (参考)
愛国地区	0	75	90	165 (13%)	38,833
橋南地区	7	54	97	158 (13%)	26,350
橋北地区	5	38	138	181 (14%)	5,580
春採地区	3	32	47	82 (7%)	36,243
大楽毛地区	3	98	127	228 (18%)	18,777
鳥取地区	4	73	144	221 (18%)	30,572
鉄北地区	0	73	143	216 (17%)	22,040

釧路市内の人口および企業はどうか？

□ 地区別産業 細分類別企業数

地区	農業林業、 狩猟業漁業	鉱業	建設業	製造業	卸売・小売 業・飲食店	金融・保険 業	不動産業	運輸・通信 業	電気・ガス・ 水道・熱供 給業	サービス業	人口 (参考)
愛国地区	0	0	72	3	60	0	4	7	0	23	38,833
橋南地区	7	0	43	10	50	0	6	9	1	38	26,350
橋北地区	5	0	16	21	95	0	12	10	1	33	5,580
春採地区	2	1	27	5	30	0	2	1	0	16	36,243
大楽毛地区	2	1	52	46	57	0	5	36	0	34	18,777
鳥取地区	1	3	50	23	79	0	3	23	0	42	30,572
鉄北地区	0	0	65	8	100	0	8	4	0	39	22,040

地区	従業員 5名未満	従業員 10名未満	従業員 30名未満	従業員 50名未満	従業員 50名以上	人口 (参考)
愛国地区	79	40	40	6	4	38,833
橋南地区	70	38	37	10	9	26,350
橋北地区	78	43	49	12	11	5,580
春採地区	45	17	11	3	8	36,243
大楽毛地区	95	56	60	11	11	18,777
鳥取地区	94	50	54	14	12	30,572
鉄北地区	97	56	48	9	14	22,040

釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？

□ 人口

愛国地区、橋北地区、鳥取地区が多く、中心市街地である橋北地区、鉄北地区等は、人口という意味では中心的役割を果たしていない → スプロール現象

□ 企業総数

大楽毛地区、鳥取地区等が中心であり、産業分類で見ると第二次産業である。

橋北地区は、従来より飲食業を中心とした第三次産業が中心である。

一方、近年伸びてきている愛国地区は、二次産業、三次産業がバランスよく伸びてきている。

□ 産業小分類で見ると・・・

建設業は愛国地区、鉄北地区に多くある。

サービス業は橋南地区、橋北地区だけでなく、鳥取地区にも多い。

卸売・小売・飲食店も同様である。

製造業は、大楽毛地区に多く集積している。

釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？

□ さらにいくつかの細かい地区(町名)で見ていく

(1) 橋北地区

No.	地区	町名のみ	企業数	従業員数	人口	企/人口(百人あたり)	従/人口(%)
			全109町中	全109町中		全109町中	全109町中
22	橋北地区	旭町	5 (78位)	39 (84位)	1,048 (40位)	5 (77位)	4 (80位)
25	橋北地区	栄町	14 (28位)	164 (39位)	175 (85位)	80 (13位)	94 (12位)
32	橋北地区	海運	3 (88位)	65 (67位)	- (106位)	E	E
39	橋北地区	錦町	14 (28位)	539 (7位)	79 (93位)	177 (9位)	682 (6位)
43	橋北地区	幸町	7 (62位)	41 (81位)	398 (77位)	18 (32位)	10 (54位)
46	橋北地区	黒金町	28 (10位)	457 (9位)	128 (88位)	219 (6位)	357 (8位)
56	橋北地区	寿	15 (26位)	328 (16位)	1,205 (35位)	12 (44位)	27 (27位)
82	橋北地区	川上町	9 (49位)	67 (65位)	309 (80位)	29 (21位)	22 (33位)
96	橋北地区	仲浜町	10 (43位)	145 (42位)	233 (81位)	43 (14位)	62 (17位)
106	橋北地区	南浜町	4 (85位)	53 (75位)	407 (75位)	10 (52位)	13 (48位)
114	橋北地区	浜町	16 (24位)	257 (24位)	47 (98位)	340 (3位)	547 (7位)
121	橋北地区	宝町	8 (56位)	62 (68位)	402 (76位)	20 (26位)	15 (44位)
124	橋北地区	北大通	25 (12位)	161 (41位)	116 (90位)	216 (7位)	139 (11位)
127	橋北地区	末広町	24 (14位)	388 (14位)	129 (87位)	186 (8位)	301 (9位)
130	橋北地区	浪花町	11 (39位)	300 (20位)	904 (52位)	12 (46位)	33 (24位)

釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？

□ さらにいくつかの細かい地区(町名)で見ていく

(2) 春採地区

No.	地区	町名のみ	企業数	従業員数	人口	企/人	従/人
			全109町中	全109町中		全109町中	全109町中
26	春採地区	益浦	4 (85位)	40 (83位)	2,079 (26位)	2 (98位)	2 (91位)
37	春採地区	興津	11 (39位)	360 (15位)	5,714 (11位)	2 (97位)	6 (67位)
41	春採地区	桂恋	1 (100位)	9 (100位)	320 (79位)	3 (88位)	3 (83位)
45	春採地区	高山	2 (94位)	42 (80位)	- (106位)	E	E
48	春採地区	桜ヶ岡	12 (37位)	163 (40位)	8,040 (5位)	1 (101位)	2 (89位)
50	春採地区	三津浦	2 (94位)	5 (105位)	90 (92位)	22 (24位)	6 (70位)
60	春採地区	春採	31 (8位)	671 (6位)	7,512 (6位)	4 (84位)	9 (57位)
81	春採地区	千代ノ浦	2 (94位)	14 (98位)	216 (83位)	9 (53位)	6 (65位)
110	春採地区	白樺台	6 (72位)	109 (53位)	2,890 (18位)	2 (94位)	4 (78位)
116	春採地区	武佐	13 (33位)	72 (60位)	9,150 (1位)	1 (103位)	1 (102位)

釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？

□ さらにいくつかの細かい地区(町名)で見ていく

(3) 大楽毛地区

人口の前12企業をまとめる必要が

No.	地区	町名のみ	企業数	従業員数	人口	企/人	従/人
			全109町中	全109町中		全109町中	全109町中
49	大楽毛地区	桜田	1 (100位)	5 (105位)	94 (91位)	11 (49位)	5 (72位)
51	大楽毛地区	山花	1 (100位)	26 (91位)	121 (89位)	8 (60位)	21 (34位)
75	大楽毛地区	新野	11 (39位)	284 (22位)	34 (99位)	324 (4位)	835 (4位)
76	大楽毛地区	星が浦大通	56 (2位)	745 (5位)	3,264 (15位)	17 (34位)	23 (30位)
77	大楽毛地区	星が浦南	56 (2位)	920 (3位)	32 (101位)	1,750 (2位)	2,875 (2位)
78	大楽毛地区	星が浦北	16 (24位)	221 (27位)	2,526 (21位)	6 (68位)	9 (59位)
86	大楽毛地区	大楽毛	36 (5位)	466 (8位)	2,379 (22位)	15 (38位)	20 (37位)
87	大楽毛地区	大楽毛西	5 (78位)	23 (93位)	2,299 (23位)	2 (93位)	1 (99位)
88	大楽毛地区	大楽毛南	9 (49位)	77 (56位)	2,067 (27位)	4 (81位)	4 (79位)
89	大楽毛地区	大楽毛北	3 (88位)	61 (70位)	225 (82位)	13 (41位)	27 (28位)
94	大楽毛地区	中鶴野	7 (62位)	16 (96位)	- (106位)	E	E
101	大楽毛地区	鶴丘	3 (88位)	16 (96位)	178 (84位)	17 (35位)	9 (55位)
102	大楽毛地区	鶴野	8 (56位)	102 (55位)	67 (94位)	119 (10位)	152 (10位)
103	大楽毛地区	鶴野東	17 (19位)	66 (66位)	3,666 (14位)	5 (80位)	2 (93位)
113	大楽毛地区	美濃	1 (100位)	8 (102位)	51 (96位)	20 (27位)	16 (43位)
125	大楽毛地区	北斗	3 (88位)	30 (88位)	33 (100位)	91 (12位)	91 (13位)

釧路市内の人口および企業はどうなっているのか？

- 地区別のことから何が分かるか？
 - ・ 人口のスプロール化の可能性
 - ・ 企業の存在により辛うじて、地域が守られている可能性
 - 企業の撤退は、地域の衰退に
 - 閾値を超えれば、スーパーは撤退
 - 悪循環！！
 - ・ 地域を「コンパクト」にとっても、限界がある。
ただし、現状をしっかりと認識することが、スタートではないか？

釧路市の企業はどうなっているのか？

□ 企業経営環境からみる釧路地域経済の課題

	法人申告所得総額	1社平均法人所得		1人あたり課税所得				高額納税者数	
	2005年	2005年	(順位)	1995年	(順位)	2005年	(順位)	2004年	(順位)
札幌市	337,400	297,007	1	3,608	2	3,272	1	957	1
函館市	13,154	124,096	22	3,241	13	2,981	12	124	2
旭川市	17,319	114,693	25	3,234	14	2,939	16	123	3
釧路市	7,182	117,742	24	3,251	12	2,944	15	54	5
帯広市	17,094	194,245	8	3,339	7	3,102	7	103	4
単位	百万円	千円		千円		千円		人	

※ 順位は、北海道内全35市のうち

※ 釧路地域の企業は、あまり稼げていない

釧路市の企業はどうなっているのか？

- 観光業、釧路の今後の核となりうる(かもしれない)

食料品製造業について分析する

	総数 (社)	0人	1~4人	5~9人	10~19人	20~29人	30人~	製造品出荷 額 (100万 円)	現金給与総 額 (100万 円)
釧路市	108	9 (8%)	20 (19%)	20 (19%)	18 (17%)	8 (7%)	33 (31%)	72,063	6,079
帯広市	46	3 (7%)	9 (20%)	10 (22%)	7 (15%)	4 (9%)	13 (28%)	55,902	6,263
函館市	211	16 (8%)	35 (17%)	33 (16%)	40 (19%)	34 (16%)	53 (25%)	95,954	12,227

釧路市の企業はどうなっているのか？

- 食料品製造業では、3市いずれも30人以上の企業の割合は3割前後であることが見て取れる。
- 一方、各企業のアウトプットといえる製造品出荷額を見ると、釧路市は720億円であるが、企業が約半数の帯広市は559億円と釧路市の約8割程度の規模となっている。
- さらに、従業員への給与を表す現金給与総額を見ると、帯広市の水準の方が釧路市を大きく上回っており、釧路市では原材料の仕入等に回っているため、所得から消費へという域内の再投資、循環が上手く回っていない可能性が見て取れる。

人口×企業を双方考える

	人口				小売販売額						
	1990	1995	2000	2005	1991	1994	1997	1999	2002	2004	2007
釧路市	100.0	96.9	93.1	88.0	100.0	98.0	90.5	82.6	71.7	69.5	61.3
根室市	100.0	94.6	89.8	84.5	100.0	97.7	105.6	109.6	96.3	92.3	83.5
中標津町	100.0	101.9	105.8	108.6	100.0	97.6	109.7	102.5	105.6	107.0	114.9
釧路支庁	100.0	97.4	93.7	88.7	100.0	99.8	98.3	90.5	81.6	78.7	71.5
根室支庁	100.0	96.9	93.8	91.1	100.0	101.1	110.1	107.2	106.7	103.9	101.7
合計	100.0	97.3	93.7	89.3	100.0	100.1	101.1	94.5	87.6	84.7	78.6

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 釧路市の財政は どの程度悪化しているのか？

財政指標

	住民基本台帳 人口	経常収支 比率	地方債 現在高
平成13年	189,875	88.8	54.1
平成18年 (5年前比)	△	▼	▼
平成23年 (5年前比)	▼	▼	▼

5年刻みで表示。

△ 良化
(人口増、財政効率UP など)

▼ 悪化
(人口減、財政非効率 など)

歳入(一人あたり万円)

	地方税	うち市町村民税 個人分	うち市町村民税 法人分	うち 固定資産税	地方交付税
平成13年	12.20	3.48	1.24	5.40	10.35
平成18年 (5年前比)	▼	▼	△	▼	△
平成23年 (5年前比)	△	△	▼	▼	△

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 釧路市の財政は どの程度悪化しているのか？

歳出(一人あたり万円)

	民生費	うち生活保護費	衛生費	農林水産業費	商工費
平成13年	11.31	4.98	5.42	1.58	4.09
平成18年 (5年前比)	▼	▼	△	▼	△
平成23年 (5年前比)	▼	▼	△	△	▼

	土木費	消防費	教育費	公債費
平成13年	8.08	1.65	5.00	6.73
平成18年 (5年前比)	▼	▼	▼	▼
平成23年 (5年前比)	△	△	△	▼

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 見えてくること

- 1) 財政状況は悪化の一途をたどっている。
- 2) その理由として、経済状況悪化に伴う地方税収減がある
 - ・ 所得を表す市民税(個人・法人とも)
 - ・ 地域の活性化を表す固定資産税(※のちほど地価は比較)
- 3) 固定費として考えられる「生活保護」を中心とした社会福祉に充てられる「民生費」の額がうなぎ登りである。

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 釧路市の財政は 北海道の中で どの程度悪いのか？

財政指標(北海道の都市内ランキング)1位が良

	経常収支比率			地方債現在高		
	H13	H18	H23	H13	H18	H23
札幌市	8位	24位	32位	18位	11位	34位
函館市	13位	7位	9位	28位	13位	31位
小樽市	30位	31位	34位	22位	8位	8位
旭川市	11位	10位	17位	24位	12位	33位
釧路市	20位	25位	33位	20位	19位	18位
帯広市	6位	3位	12位	19位	16位	20位
北見市	23位	21位	18位	17位	21位	24位
苫小牧市	16位	16位	13位	27位	5位	32位

→ 経常収支比率は平成13年当時も悪かったが、平成23年では、33位。
理由) 生活保護費 等

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 釧路市の財政は 北海道の中で どの程度悪いのか？

	地方税			うち市町村民税個人分			うち市町村民税法人分			うち固定資産税		
	H13	H18	H23	H13	H18	H23	H13	H18	H23	H13	H18	H23
札幌市	3位	4位	5位	1位	1位	3位	2位	2位	3位	5位	5位	6位
函館市	11位	11位	11位	10位	10位	16位	12位	9位	13位	13位	16位	14位
小樽市	16位	18位	20位	21位	22位	25位	20位	15位	7位	12位	14位	19位
旭川市	12位	13位	16位	14位	15位	18位	9位	10位	12位	16位	19位	21位
釧路市	7位	9位	12位	11位	16位	17位	7位	5位	11位	8位	13位	17位
帯広市	6位	6位	6位	3位	4位	5位	6位	7位	6位	10位	7位	11位
北見市	13位	16位	13位	13位	14位	10位	4位	11位	10位	17位	18位	20位
苫小牧市	1位	1位	3位	15位	11位	9位	1位	3位	4位	1位	1位	3位

→ 経済力の低下と共に、順位も悪化
地方税 平成13年当時 帯広市とほぼ同じ → 北見市レベルへ
市町村民税 函館と共に悪化
固定資産は著しく悪化 ..旭川も小樽も同様だが..
→ 帯広、苫小牧の数値と比べると、根本的な対策が必要であることは、
見て取れる

釧路市の財政を巡る現状はどうなっているのか？

□ 参考(地価)

	地価		地価		釧路／帯広
	帯広市		釧路市		
	帯広市西1条南10丁目1番2外		釧路市北大通11丁目1番1外		
1997年	590,000		510,000		86.4%
1998年	500,000	-15.3%	470,000	-7.8%	94.0%
1999年	410,000	-18.0%	383,000	-18.5%	93.4%
2000年	310,000	-24.4%	288,000	-24.8%	92.9%
2001年	240,000	-22.6%	220,000	-23.6%	91.7%
2002年	192,000	-20.0%	162,000	-26.4%	84.4%
2003年	157,000	-18.2%	132,000	-18.5%	84.1%
2004年	148,000	-5.7%	116,000	-12.1%	78.4%
2005年	138,000	-6.8%	102,000	-12.1%	73.9%
2006年	130,000	-5.8%	79,500	-22.1%	61.2%
2007年	128,000	-1.5%	75,500	-5.0%	59.0%
2008年	126,000	-1.6%	74,600	-1.2%	59.2%
2009年	120,000	-4.8%	73,700	-1.2%	61.4%
2010年	116,000	-3.3%	69,000	-6.4%	59.5%
2011年	114,000	-1.7%	63,500	-8.0%	55.7%
2012年	112,000	-1.8%	59,000	-7.1%	52.7%
2012/1997	19.0%		11.6%		

※ 帯広駅を出て 藤丸に行く途中

まとめ～人口減少時代を生き残るために、何をすればよいのか？

- (1) 人口減少時代というけれども、「いつ」「どれくらい」減るの
かをしっかり認識する必要がある
- (2) 人口減少は「なだらかに下っていく」現象であるが、私たちの生活に直結する“店が無くなる”などは突然発生するため、
そのあたりがどこにあるのかを考える

→ まだ対応できることもあるのでは？

- (3) 企業は存在することで地域に貢献していることも非常に大きい。住民との共存共栄を図るために、「新たなコミュニティの醸成」が必要

